

令和元年度自己評価表

鳥取県立境高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		価値観が多様化する時代を生き抜く力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る。 ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。		本年度の 重点目標		「BIG」に育て境高生			
		年 度 当 初				評 価 結 果 (9月)			
評価項目		評価の具体項目		現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 部活動の振興を基軸としたチーム境高意識の高揚		○「部活動に入ってしっかり頑張った」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○全国大会出場者が80名、入賞者が5名を超えること。 ○中国大会出場者が200名を超えること。		○全国大会出場者は42名で目標を下回ったが、中国大会には運動部163名、文化部25名が出場を果たすとともに、文武両道を図るよう各部で指導することができた。 ○中学生向けパンフレットや運動部の紹介ビデオは発信力のある良いものが作成され、地域や全国にPRできた。 ○ボランティア活動に参加した生徒は昨年ののべ49名から139名へと大幅に増加した。 ○スクールプロジェクトや部活動による地域と連携した取組は、参加児童等全員が「参加して良かった」と回答する等、高く評価されている。	○文武両道の活力があり地域の誇りとなる普通科高校として存在 ○県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信	○鳥取県運動部活動の在り方に関する方針に基づき、部活動の再編並びに顧問の適切な配置を行い、より一層保護者との連携・協力を密にする。 ○部活動と学習を両立させ、全国レベルで活躍している高校に教員を派遣し、本校の特色づくりを再構築する。	○部活動加入率は7割を超えている。 ○ヨット部、陸上部、ハンドボール部、バドミントン部、美術部、写真部、書道部が全国大会出場。硬式野球部、吹奏楽部、その他多くの部活動が中国大会に出場している。	B	○新人戦以降での活躍に向けて部活動指導に取り組む。 ○部活動と学習との両立に向けて効率よく練習に取り組むようにする。
		○ボランティア活動に参加する生徒の数が増加すること。			○地域のボランティア活動への積極的な参加 ○部活動において地域の人材の力を借りたり、生徒が小中学生に学習やスポーツを指導したりすることで地域の信頼を獲得	○ボランティア活動の大切さについての情報を1年次生から生徒に伝える工夫を行う。 ○スクールプロジェクトを例年通り計画的に開催する。	○9月末までのボランティア参加者のべ数は125名。 ○スクールプロジェクトに小学生が14名参加。	B	○より多くの生徒がボランティアに参加するよう呼びかけを継続する。 ○境港市内の全小学校にスポーツ・文化活動交流を模索する。
2 命の教育（人間教育）を充実		○「自分や他人を大切にすることができた」と回答する生徒の割合が9割を超えること。 ○「生徒は自分や他人を大切にすることができるようになった」と回答する教員の割合が9割を超えること。		○教職員は、あいさつや日常の声掛けを励行し、生徒の変化に気づく努力をしている。 ○各学年の情報交換会を原則的に各学期に一度設けて、問題や困り感を抱える生徒の情報共有を図り、日々の指導に生かすことができる。 ○頭髮服装指導を徹底することができ、年間を通して違反者は少なかった。 ○列車マナー、挨拶などは現状ではまだ十分とはいえない。 ○ゴミの分別状況・電力消費量についての報告を環境委員が行い、全生徒に啓発する機会を設けることができた。	○生徒一人ひとりの状況を全教職員が把握できているといふ人権尊重意識の高い職場 ○命の教育全体計画に基づいた規範意識・人権意識の高揚	○継続して生徒の細かな変化に注意を向けるとともに、「待ち」ではなく「攻め」の姿勢で生徒の変化に対して組織的に対応する。 ○規範意識と人権意識を身につけさせるとともに、「いのちの教育講演会」を開催する。	○概ね良好な人間関係づくりができています。 ○「個別面談」「生活アンケート」等さまざまな取組から生徒の課題を浮き彫りにできた。	B	○校内会議をはじめ、いろいろな機会をおして生徒情報を共有し、効果的な全体指導・個別指導を続ける。
		○「挨拶・服装等けじめのある学校生活ができた」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○ゴミの分別・減量化について、平成25年度との比較で継続して減量を実現すること。			○挨拶の励行、服装・清掃指導等の徹底 ○生徒が主体となって取り組む学校環境の整備	○生徒会による挨拶運動等、生徒の主体的に発覚な活動を促す。 ○列車マナーの改善を図るため、年間を通して全教職員で列車指導を実施する。 ○環境委員を通じて、ゴミの分別の徹底・減量化などの活動を継続して実施する。	○生徒会執行部等による朝の挨拶運動は実施できた。 ○環境委員は積極的に活動したが、学校祭でのゴミが昨年度より多く出された。	B	○継続して、挨拶や環境整備の必要性をその都度その都度呼びかけ、喚起する。 ○学校祭展示の部で事前にゴミ排出を意識した取組を計画する。
3 学ぶ姿勢を確立して目指す進路を実現		○「進路目標を定め、その実現に向けて家庭学習を進めた」と回答する生徒の割合が5割を超えること。 ○大学入試センター試験の出願率が7割を上回ること。 ○国公立大学現役進学者数が30名を超えること。		○1年次生の企業を招いてのキャリア塾、2年次生のインターンシップ・先輩との交流・上級学校訪問の取組により、生徒のキャリア意識がより一層高まった。 ○大学入試センター試験の出願率が64.2%（124名）となり昨年の38.1%を大きく上回った。 ○国公立大学現役進学者数が10名で前年の23名を下回った。 ○9教科で外部講師や専門家を招聘した授業を実施するとともに、授業公開週間を設定し、全教科で公開授業を実施した。	○生徒が3年間をとおして進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿の確立 ○キャリア教育全体計画に基づいた明確な進路目標を設定	○土曜日学習会や講習を継続実施し、学習会の中で生徒一人ひとりが自ら計画した内容に主体的に取り組むことができるよう改善を図る。 ○面接やプレゼンテーション（考えをまとめ他者に伝える力）等の受験に対応できる学習方法を1年次生から指導していく。	○土曜日学習会には特別進学クラスを含め52名が参加。 ○1年次生にはプレゼンテーション力を高めるグループ学習等を実施。早くから具体的な進路先を調べる生徒が増えた。	B	○「キャリア塾」等を契機として社会（参加）に興味を持たせ、その前段階としての進学意識を育む取組をLHR・かしのはタイムを中心に行う。 ○9月末でのセンター試験受験希望者は145名（昨年度は124名）で、講習・個別指導を徹底する。
		○「授業の内容に興味がわき、理解が深まった」と回答する生徒の割合が8割を超えること。 ○タブレット端末等のICTを活用した生徒主体の授業を8割以上の教員が実践すること。			○アクティブラーニング型授業を取り込んだ授業研究会並びに授業参観週間での各教科代表による公開授業の定着	○アクティブラーニング型授業は、教員側のより一層の研鑽をとおして、自発的に生徒が学べるような環境作り（境高式アクティブラーニング）を構築する。 ○生徒が自ら調べ考察し発表する力をつけるために「境考学」を実施する。	○学習に向かう主体的姿勢としてはまだ十分ではない。アクティブラーニング型授業もまだまだ定着しているとは言えない。 ○一方で、生徒たちが協力しあって活動できるような教材開発も進めた。	C	○授業公開週間での授業公開は定着してきたが、PTA教育懇談会での授業参観などをとおしてさまざまな角度から授業改革を進めたい。
4 学校業務改善の取組		○行事や委員会等を抜本的に見直す。 ○長時間勤務者の解消		○目的が重複する行事やその準備等によって、勤務時間の長大化につながっている。 ○休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。	○月当たりの時間外業務を平成29年度比で15%削減 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底 ○部活動に係る時間外業務80時間以上勤務者の解消	○行事の準備等に過剰なものがないかの点検 ○管理職員による各部の休養日、活動時間の把握、遵守の働きかけ ○顧問体制の柔軟な運用	○時間外業務80時間以上勤務者が毎月複数名あり ○部活動休養日や部活動時間の短縮と効率化は進んできた。	C	○部活動のガイドラインの遵守に努め、引き続き、業務の効率化に取り組む、時間外業務を削減する。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]